



大阪狭山市のマスコット

さやりん

市民のみなさんから寄せられた活動を中心に紹介しています。

大阪狭山市市民活動支援センター情報誌

News Letter Express

VOL.74

2024年3月



目次	P
第2回わくわく市民活動	1
しみんのちから登録団体紹介	1
第31回市民・団体交流会 他	2
第19期まちづくり大学修了式 他	3
ニュースレターの歩み	4
市民活動市援センタースタッフのコメント	5
情報ステーション	6

第2回 わくわく市民活動・ボランティアフェスティバル

2月11日(日)昨年に引き続いて第2回わくフェスが市立公民館で開催されました。当日は天候にも恵まれ、参加者が5300人を超える大盛況となりました。今回は参加した26団体で結成されたわくフェス実行委員会が主催する形式で催行されましたが、周到な事前準備によりスムーズな運営が行われ、無事に終了することができました。

会場では、ポッチャや手芸・工作等の手作り体験などのワークショップに多くの子どもさん達が真剣な表情で取り組んでいる姿が見られ、ステージでのショーや活動内容の展示などの会場でも多くの人であふれるような状況でした。その他に模擬店やキッチンカーも出店し、昼時には行列ができる混雑ぶりでした。

14:30からは市長も参加してさやま音頭保存会や参加者の皆さんと一緒に踊り、大いに会場が盛り上がったなかでのフィナーレを迎えることができました。大阪・関西万博の公式キャラクターであるミャクミャクも参加し、大勢の人達に取り囲まれ写真撮影に応じたり、愛嬌を振りまいて万博のPRにも努めていました。

(第2回わくフェスの様子)



「しみんのちから」登録団体NO.360 さくらの街のマルシェ

4年ぶりに、手作り作品・アレンジ作品のマルシェ、及び体験型手作りワークショップを開催します。南大阪を中心に活動する作家が大集合！新学期グッズ、アクセサリ、バッグ、陶器、インテリア小物などクラフト作品が並びます。キーホルダー作り、ブレスレット作り、水彩画、フェイスペイント、耳つぼジュエリーの体験ができるワークショップも予定しております。

(事前申し込み制ではなく当日受付です) 子どもから大人まで楽しんでいただける内容が盛りだくさん！

ぜひお誘い合わせの上お越しください。

日時：3月31日(日) 10:00~16:00

場所：SAYAKAホール 1階 展示ホール

最新情報はインスタグラムで (@sakuranomachinomarche)

ホームページ:

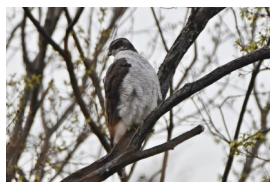
[https://](https://sakuranomachinomarche.jimdofree.com/)

sakuranomachinomarche.jimdofree.com/

問い合わせ：さくらの街のマルシェ事務局

sakuranomachinomarche@gmail.com

地域を元気にするコミュニティ・ビジネスを当センターでも応援しています。



陶器山の自然

オオタカ

情報提供

あまの街道と陶器山の自然を守る会

第31回 市民・団体交流会

2月24日(土)14時～16時 市役所南館講堂で第31回市民・団体交流会を開催しました。

大阪狭山市内で活動している市民や団体が、困りごと・地域の課題・団体の活動状況などを話し合い、お互いに支え合える関係を拡げていくために毎年4回程度開催しています。

今回は、「しみんのちから」に登録の福祉・環境・まちづくり・防災、子どもの健全育成などのすべての団体に案内した結果、14団体、19名の方々が集まってくださって、日ごろの取り組みや活動に対する思いなどを熱く語りあいました。コロナ禍で、多くの制約を受けながらの活動でしたが、最近あまり他の団体の活動を聞く機会がないため、とても有意義な時間を持てたとの感想でした。団体同士の話し合いで協働まではい

かなくても、団体の状況を聞いてそれぞれの団体の今後の活動力アップに繋がり、活動のミッションの達成に役立つことになりました。

また、大阪狭山市を「暮らしやすい住み続けたいええまちに」したいという思いにつながる交流会でした。



令和5年度 市民活動支援セミナー

毎年恒例として開催しています「市民活動支援セミナー」を3月2日(日) 市役所南館講堂で開催しました。講師は大阪大谷大学 スポーツ健康学科長 教授 中道厚子 氏です。

参加者の26名は、女性7割で、やはり圧倒的に女性が多く参加されていました。プログラムは第1章「生涯現役の第一歩として自分のことを人まかせにしない生き方」として、今高齢者の周りで何が起きているか？社会の現状をエビデンスで紹介。

その後グループに分かれワーク1と2では（子ども時代から高齢期までの頑張ったことのふりかえり作業）がありました。第2章では「変わる高齢者観」として、65歳～74歳までは心身健康であり、近年、これからは75歳以上を高齢者とする新たな定義が提案されているとのこ

とでした。ワーク3では、3市民活動団体より、生きがいになっている活動が報告されました。

参加者からは、今後活動する中で大変参考になったという評価がありました。



令和5年度 私たちの市民活動発表会&交流会

3月9日(土)南館講堂にて、「私たちの市民活動発表会&交流会」を開催しました。今年で3回目、特に若い層で活躍されている団体を広く市民に知ってもらいたいという趣旨で開催しています。

今回の発表団体は「大阪狭山防災レンジャー」と「若者自立支援センターのびのび」です。「防災レンジャー」は2022年11月に設立されて、「全員が全員を全員で守れるように」未就学児から大人までを対象に精力的に「救命講習会」「防災さんぽ」などのイベントを行っています。「のびのび」は創設者の森岡代表から引き継いだ井上代表を中心に不登校問題や地域交流活動など、幅広く活動をしています。両団体の発表の後、参加者が二つのグループに分かれてそれぞれの団体を囲んで交流しました。参加者からも自身の活動の紹介があり、他の参

加者や「防災レンジャー」「のびのび」からの質問などがでて、活発な話し合いがされました。この2団体はともに、他の団体と繋がって活動を広げていこうとしていて、狭山のボランティア活動のネットワークがますます強固になっていく予感があります。



第19期まちづくり大学修了式

令和5年9月9日に開講しました「第19期まちづくり大学」が、1月27日に古川市長をお迎えし、修了式を執り行いました。5か月間の長きにわたって12名の受講生が、大阪狭山市の現状を知り、公共施設の見学、ボランティア講座等を受講したのち、修了条件（15講座中11講座以上受講）を満了した6名の方が修了し、古川市長から修了証書を授与されました。古川市長からは「まちづくり大学の受講が終わりましたが、ゴールではなく、これからがスタートです。行政だけでは出来ないことを、市民のみなさま方のお力をお借りして協働で取り組んでいただきたい。そして取り組みには、出来ることを、出来る時間で、出来るだけ」との祝辞がありました。

修了生を代表して朽木浩平さんからは、「今回学んだ

ことを、さらに深め活かしていきたい、市民協働の輪を広めていきたい」との力強い答辞がありました。修了された皆様には、これからのまちづくりに、大いに期待をしております。



まちづくり大学の歩み

新しい“まちづくり”は、市民参加のまちづくりであり、協働の概念に基づくまちづくりである。より良い大阪狭山市づくりのために、市民も行政の現状をより深く理解し、まちづくりへのパワーを蓄えることが必要であるとの思いで平成19年4月に開講しました。

開講後、コロナ感染防止のため第16期・第17期は休講としましたが、公開講座だけは開講し多くの市民の

皆様方に受講していただきました。第1期修了生から、「まちづくり大学」で学んだことを分野別に分科会を立ち上げ、「まちづくり研究会」として発足しました。これからもまちづくりのために「まちづくり研究会」が発展していくことを願っております。

	受講生	修了生	修了率	開講年月
1期	41	30	73%	平成19年4月～9月
2期	37	29	78%	平成19年10月～3月
3期	30	28	93%	平成20年4月～9月
4期	30	30	100%	平成20年10月～3月
5期	35	31	89%	平成21年6月～12月
6期	32	28	88%	平成22年6月～12月
7期	42	30	71%	平成23年6月～12月
8期	32	20	63%	平成24年6月～12月
9期	30	20	67%	平成25年6月～12月
10期	52	46	88%	平成26年9月～12月
11期	51	37	73%	平成27年9月～12月
12期	41	34	83%	平成28年9月～12月
13期	34	31	91%	平成29年9月～12月
14期	16	13	81%	平成30年9月～12月
15期	15	7	47%	令和元年9月～12月
16期	コロナ感染防止のため休講			
17期				
18期	18	12	67%	令和4年9月～1月
19期	12	6	50%	令和5年9月～1月
合計	548	432	79%	



ニュースレターの歩み これまで記載した記事から一部を抜粋



2005年創刊号

市民活動支援センターが移転しました

大阪狭山市市民活動支援センターは、市が「市民活動」を「支援」するための従前のセンター組織を、行政との協働を進める「民」の立場に移管し活動しています。



2011年9月25号

南三陸町被災地支援プログラム

大阪狭山市社会福祉協議会では、7月15日に、第1回災害ボランティアバスを、東日本大震災被災地の宮城県南三陸町に、第2回目の災害ボランティアバスも8月26日に現地へ赴きました。



2015年12月4日号

古川市長と語る～まちづくり大学公開講座

まちづくり大学の一般公開講座の参加者を募集しています。第1部では古川市長が自ら語り、また第2部でも3人の市民団体代表に市長が加わりパネルディスカッション形式で、これからの市政の展開と、そこで期待される市民力について議論を深めます。



2020年10月6号

新型コロナウイルスの対応について

新型コロナウイルス感染対策として、現在市民活動支援センターでは以下のような対応をとらせていただいています。
・使用前後に室内のテーブルなど、手が触れるところの消毒をお願いします。



2023年12月7日号

第2回 わくわく市民活動・ボランティアフェスティバル

わくわく市民活動・ボランティアフェスティバル（通称：わくフェス）は、市民活動やボランティア活動を多くの人に知ってもらうきっかけをつくり、活動の輪が繋がりを、広がることを目的として開催するイベントです。令和5年2月に開催した第1回わくフェスは、参加者が約1500人となり、大盛況で終了しました。



市民活動支援センタースタッフのコメント



センター長 橋本 巖

大阪狭山市市民活動支援センターは、平成17年に大阪狭山アクティブエイジング（略称OSAA）設立後、大阪狭山市から受託し、平成17年10月にNLE創刊号を発刊しました。その後、令和6年3月号まで19年間、長きに亘って発刊できましたのは、皆様方のご協力があったのことに深く感謝を申し上げます。長年にわたりご支援くださった皆様方に改めてお礼を申し上げると共に、これからのご活躍を祈念いたします。

ふりかえると13年にもなります。当初、ボランティア活動について、少しは理解していたが、実際の活動に携わると、奥が深い。ボランティアに関する書物や研修などをボランティア協会や大学などで受講しました。しかし、サポートする際、団体活動の相談や問題解決に当たるとき、これが正解という答えはありません。一緒になって共に考え、最善の答えを引き出すことが大事であると知りました。



副センター長 中西豊次



事務局長 伊勢田 徳生

平成19年9月に、まちづくり大学第1期を卒業し、まちづくり研究会(環境)・ごみ減量対策推進会議で、ボランティア活動を始めました。平成22年7月に大阪狭山市市民活動支援センターに、「VIC(ボランティア・インフォメーション・コーナー)」が発足した際に、OSAAより入会を勧められ、その立ち上げ準備等に当たりました。



早野 秀夫

ホームページと本誌の編集を担当しています。ICT→(愛して)と心の中でいつも祈ってました。

熟年いきいき事業から21年間お世話になりました。



氏川 誠



長町 全規

知らない方から「一緒に居場所づくりをしませんか？」とのお誘いの話を受けた事がきっかけでボランティアの一員として今日まで活動してきました。



右田 洋海

2007年から17年間お世話になりました



岡本 佳久



木下 紘

2016年6月号で、新入スタッフとして紹介されている記事を見つけました。あれから8年、早いなあ。。



中澤 真理子

9年間お世話になりました。入館時に警備操作盤の警報を鳴らした為いつも緊張して開錠していました。

松田 学

南館他、いろいろな場所で市民活動団体の皆様との出会いを楽しみにしています。

たくさんのご指導をありがとうございました。



2020年の春コロナウイルスが猛威を振り始めた頃に、縁がありスタッフの一員に加わりました。



武市 圭子



開館時間変更のお知らせ

4月1日から市民活動支援センターの開館時間や休館日を次のとおり変更します。利用の際は注意してください。

開館時間	月曜日から土曜日 10:00~21:00 日曜日 10:00~18:00
休館日	年末年始（12月29日から1月3日）、祝祭日



市民活動のための備品貸出

備品：ノートパソコン、録音マイク、ビデオカメラ、プロジェクター、アクションカメラGoPro、スクリーン、WEB会議用カメラ、マイク、デスクトップパソコン

利用方法：事前に指定の申請書を提出してください。代理申請も可能ですが、団体代表者の氏名・住所・電話番号が必要です。

貸出は最大5日間、利用は無料。

貸出対象団体：

しみんのちから登録団体
自治会などの地域活動団体



市民公益活動促進補助金

令和5年度事業報告会・令和6年度公開プレゼンテーション

令和5年度の市民公益活動促進補助金に採択された団体の事業成果報告会と、令和6年度の補助金申請団体の公開プレゼンテーションを開催します。この報告会とプレゼンテーションでは、市民は、どのような事業に補助金が支出されているのかを知ることができ、これから補助金を受けて事業を企画したいと考えている団体は、どのような事業が選ばれているのかを具体的に知ることができます。それぞれの団体が工夫を凝らしたプレゼンテーションを行います。

日時：4月21日(日) 午前10:00から

場所：市役所南館・講堂 申し込み 不要

問い合わせ：公民連携・協働推進グループ、市民活動支援センター

令和5年度事業報告会 チャレンジ部門

団体名	事業名
大阪狭山防災レンジャー	そなえてまわれプロジェクト

自立促進部門テーマ型

団体名	事業名
特定非営利活動法人南大阪サポートネット	地域で作る“生きづらい人々の居場所” トビラファーム

自立促進部門提案型

団体名	事業名
特定非営利活動法人南大阪サポートネット	ひきこもりの若者たちが「EM 廃油石鹸」で未来の循環を作る
猫ともクラブ in 大阪狭山	地域猫活動ってにゃんだ?~命にやさしいコミュニティをめざして~

編集後記

人生100年と言われている。ここで50年を振り返り先の50年を予測してみよう。50年前にはオイルショックが有り、ホテルニュージャパン火災・日航ジャンボ機墜落のあとバブル景気に世の中が沸いたが、やがてバブルも崩壊してその8年後には阪神・淡路大震災が発生した。2K問題の最中に大阪USJが開設され天皇家では愛子様が誕生された。10年後にJAL倒産・東日本大震災とその5年後には熊本地震が起きている。コロナウイルスの感染拡大はまだ尾を引いている。今は地球温暖化の影響で生態系が狂い熊が冬に冬眠せず街中をうろつき、鯨が迷って接岸する。タクシーが空を飛び荷物を無人で配達する。また、医療界では人に移植用の豚を飼育する。さて、50年先にタイムスリップすると医学の進歩で人口爆発現象が起こり食糧難・移住難となる。人は地底・海底・砂漠・密林に住居を作り、食料の野菜はビル内で栽培される。月では観光地の周りにホテルが林立して、若者が結婚すると月にハネムーン(月)と洒落込む。(Ha)

大阪狭山市市民活動支援センター

News Letter Express

発行責任者：橋本 巖

編集責任者：早野 秀夫

〒589-0005 大阪狭山市狭山1-862-5

TEL・FAX：072-366-4664

E-mail:simin025@yacht.ocn.ne.jp

<http://osakasayama-sc.jp>

